

## あ と が き

『ルーテル学院研究紀要』第55号が、皆様のご協力により発刊できました。

新型コロナ・ウィルス感染症が拡がり始めて2年経ちますが収まる気配はありません。ますます身近なところで影響を感じていらっしゃる方も多いことと思います。

本学の教育や学生生活にも大きな影響がありました。授業は教室での対面授業とオンライン授業を組み合わせ実施しています。

学生の卒業論文や院生の修士論文も質問紙調査やインタビュー調査をオンラインで実施することが増えました。学生や院生はそれぞれに工夫し努力して研究に取り組んでいます。研究活動が難しくなる面もありますが、オンラインだからこそ遠方の人と共同で研究したり、海外の研修会や学会に参加できたりする利点も感じられています。

時代の変化に応じながら教育と研究に取り組んでいるルーテル学院大学の働きの一環を研究紀要として報告いたします。

紀要第55号には、キリスト教関係の論文や書評など4本と臨床心理関係の論文1本を掲載することができました。それぞれの著者の貴重な研究の成果を伝える労作・力作です。

本学『研究紀要』は2019年度（第53号）から、印刷による配布を取りやめて、電子媒体で発行しております。これまで冊子で発行した研究紀要もデジタル化して機関リポジトリに掲載しております。

リポジトリには、『テオロギア・ディアコニア』という誌名で発行されていた第30号（1996年度）から第38号（2004年度）までの論文と、改題後の『ルーテル学院研究紀要』第39号（2005年度）以降に掲載された論文を収録しております。第29号より前の『テオロギア・ディアコニア』に遡って、順次リポジトリに登録して参ります。ぜひ、多くの皆様にお読みいただきたいと思います。

ルーテルリポジトリ（ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校機関リポジトリ）には、下記のURLからアクセスできます。

<https://luther.repo.nii.ac.jp/index.php>

また、「投稿規程」と「投稿票」もウェブサイトから入手していただけます。

<https://www.luther.ac.jp/education/kiyou/>

キリスト教・社会福祉・臨床心理の対話や協働の場として、また研究と教育の良い循環を作る場として、『紀要』が発展して行けますように、これからも暖かいご理解とお力添えをよろしくお願い申し上げます。（加藤純）

2022年3月

紀要編集委員会

加藤 純（委員長）

市川 一宏

福島 喜代子

ジェームス・サック

上村 敏文

石川 与志也